

二〇一八年七月二四日(参加者九名)

沖を航くフェリーに瀬戸の秋惜しむ せいじ  
 須磨涼し赤灯台に磯馴松 せいじ  
 浜風の風ぎて駆け込む避暑ホテル せいじ  
 波白く崩れて浜を縁取りぬ せいじ  
 人影のまばらなる江に鰯跳ねる せいじ  
 地滑りの疵生々し夏の山 せいじ  
 色変えぬ松抽んでし赤灯台 こすもす  
 海の家異国めきたる屋根涼し こすもす  
 天辺の揺るる椰子の木いと涼し こすもす  
 波音の届く松浜蟬時雨 こすもす  
 高速艇涼し真白き水脈曳きて こすもす  
 潮の香の通ふ松浜避暑散歩 わかば  
 庭先に続く松浜避暑ホテル わかば  
 真青なる空へカラフル砂日傘 わかば  
 イルカショー涼し飛び来る飛沫また わかば  
 海の幸のせて昼餉や夏館 わかば  
 館涼し水槽魚のパラダイス 小袖  
 夏空へイルカ突上ぐ飼育員 小袖  
 お手植の松は百年浜涼し 小袖  
 大水槽廻る鰯の群れ涼し 小袖

鮎詰めに穴子や水族館涼し なおこ  
 夏空へジャンプイルカのショータイム なおこ  
 シャンソンの楽の流れる浜涼し なおこ  
 風涼し白砂青松赤灯台 ぼんこ  
 繋船の舷を打つ波涼し ぼんこ  
 松浜に立つ古歌の碑に風涼し みきえ  
 砂日傘色とりどりに風を呼ぶ みきえ

二〇一八年七月二四日(参加者九名)

吟行句会みのる選